

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	14-132	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Problem gambling subtypes based on psychological distress, alcohol abuse and impulsivity. 心理的苦痛、飲酒、衝動性に基づくギャンブル依存症の分類について		
執筆者		
Suomi A, Dowling NA, Jackson AC		
掲載誌		
Addict Behav. 2014 Dec;39(12):1741-5. doi: 10.1016/j.addbeh.2014.07.023.		
キーワード		PMID
併存症、ギャンブル依存症、複数併存症、類型、治療		25119420
要 旨		
目的： ギャンブル依存症患者における併存症の理解は、特に適切な治療選択に際して、臨床上重要である。ギャンブル依存症の併存症として、うつ、不安、アルコール依存、衝動性が一般的に知られている。先行研究でこれらの併存症によるギャンブル依存症の分類が報告されている。本研究の目的はギャンブル依存症の類型を明らかにすることである。		
方法： 202名のギャンブル依存症患者を階層的クラスター分析により4群、①心理的苦痛を伴うもの(35%)、②併存症がない純粋なもの(27%)、③アルコール依存を伴うもの(25%)、④複数の併存症を有するもの(13%)に分類し、その特性を比較した。		
結果： 心理的苦痛を有する群は、収入の少ない年配の女性で、心理的問題のある家族歴を有する、電子ゲームプレイヤーである傾向が見られた。併存症を有しない純粋な群は、ギャンブル依存症の重症度が低く、非飲酒者である傾向が見られた。アルコール依存群は、ドラッグを使う若い男性で、QOLが高く、フルタイムで働く傾向が見られた。複数の併存症群は、心理的苦痛・アルコール依存・衝動性の点数が高く、健康問題を有し、怒り・敵意の点数が高い傾向が見られた。		
結論： 本研究は、併存症の分類によりギャンブル依存症の類型を明らかにし、効果的な治療を行うことに寄与するものである。		